

櫻井 利芳  
(さくらいりか)

千葉大学  
工学部  
都市環境システム学科



現代において生産と消費のサイクルはあまりに拡大し、見えなくなっている。それは食においても同様である。今日自分が食べたものはどこで誰がつくったものなのか？安心安全でおいしい食事を誰かと一緒にとる喜びを大切にしたい。

食問題・農業問題が深刻化するなか、これらの問題と向き合い、現代社会に順応する農業の形態やシステムを考えていくべきである。ビルの壁面、屋上、空室、隣接する道路を使った食農空間をオフィス街にて提案する。農園付きオフィスビル、ビジネスホテル、住居など、他にはない付加価値を生む。

このような空間が都市の様々な場所へ波及することで、人々の食と農への興味関心を促し、新しい都市農業のかたちを生むことを期待する。



講評

「安心安全で美味しい食事をだれかと一緒にとる喜びを大切にしたい」という作者自身の課題設定に、わたしは大いに共感する。それとともに、素直にストレートにわかりやすく社会に発信しようと試みた姿勢を高く評価する。

しかも複雑な食料問題や健康問題には深入りせず、老若男女すべての人にわかりやすくビジュアルで表現したかったのだろう。建築をゼロから構築せず、しかも現在使われている機能にも大きな変更を加えていない。まさに既存の都市や建築に対して、簡易な耐震上の補強と一体化した「緑のまとい」ですべてを語る潔さが垣間見える。

日常のメンテナンスの問題、農産物自体の廃棄物扱いの処理の問題、日射方位などによる高層部の生育の問題、などの指摘に現れるように、専門領域での技術的課題は残る。しかしわたしにとっては、そんなことは、重要ではなく、高度な技術で解決すれば良い程度の小さな問題に過ぎない。なによりもドロイングのさわやかさ・華やかさは魅力だ。街が明るくなり、そこを通ったすべての人々が元気になる風景がある。街に笑顔が溢れる素敵な提案である。

(審査委員：鳴海 雅人)